

## 柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線モニタリング結果

3月16日(月)9時現在、モニタリング結果に異常はみられませんでした。

## 1 空間放射線量率(9時現在)

測定地点		測定値 ( $\mu\text{Sv/h}$ )	通常の測定値範囲 ( $\mu\text{Sv/h}$ )	備考
常時監視 (発電所周辺監視調査)	放射線監視局	1 柏崎市街局	0.035	0.016~0.16  降雨により一時的に値が上昇することや積雪により通常の範囲を下回ることがあります。 (次頁説明参照)
		2 荒浜局	0.037	
		3 下高町局	0.038	
		4 刈羽局	0.036	
		5 勝山局	0.033	
		6 宮川局	0.038	
		7 西山局	0.037	
		8 赤田町方局	0.040	
		9 土合局	0.034	
		10 発電所南局	0.034	
		11 発電所北局	0.034	
監視強化	可搬型MP	荒浜コミュニティセンター	0.026	0.016~0.16  降雨により一時的に値が上昇することや積雪により通常の範囲を下回ることがあります。 (次頁説明参照)
		大湊局	0.020	

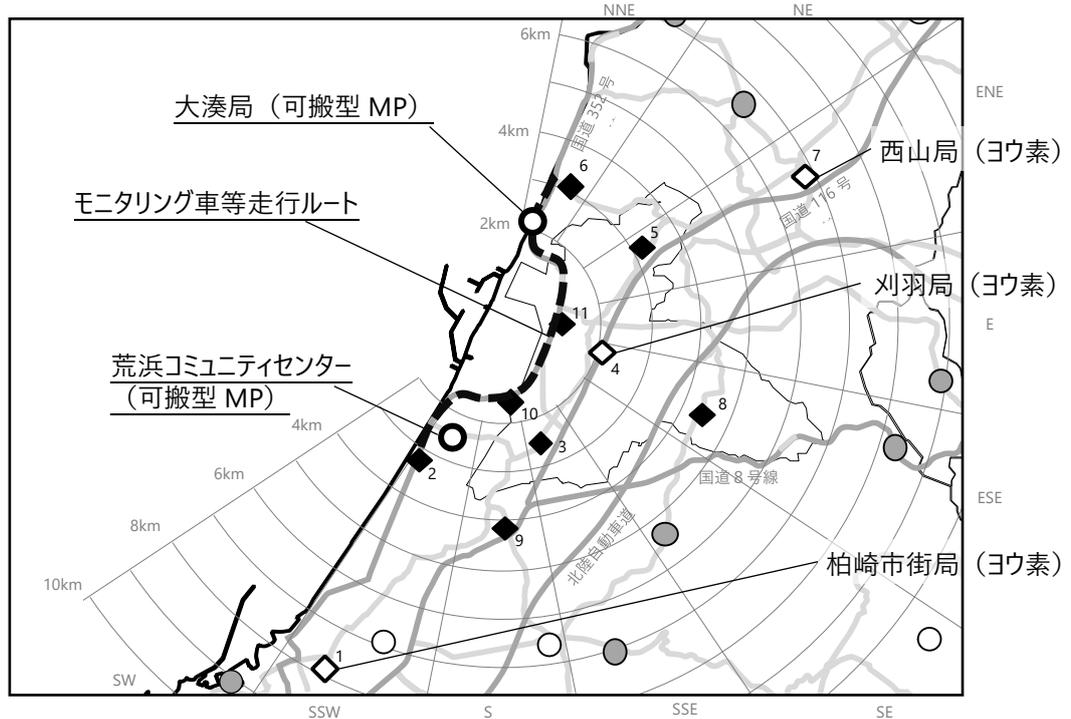
※ 柏崎刈羽原子力発電所周辺のモニタリング情報は、県のホームページで見ることができます。(http://housyasen.pref.niigata.lg.jp/)

測定方法		測定値 ( $\mu\text{Sv/h}$ )	通常の測定値範囲 ( $\mu\text{Sv/h}$ )	備考
監視強化	走行測定	—	0.016~0.16	3月13~15日実施なし

## 2 大気中放射性ヨウ素

測定地点		測定結果 ( $\text{Bq/m}^3$ )	試料採取期間	備考
常時監視	柏崎市街局	検出されず	3月12日12時~13日12時 13日12時~14日12時 14日12時~15日12時	
	刈羽局	検出されず		
	西山局	検出されず		

測定地点図 ※ 下線部は強化した内容



凡 例

◇ モニタリングポスト (ヨウ素も測定)、◆ モニタリングポスト

◇1 柏崎市街局 ◆2 荒浜局 ◆3 下高町局 ◇4 刈羽局 ◆5 勝山局 ◆6 宮川局

◇7 西山局 ◆8 赤田町方局 ◆9 土合局 ◆10 発電所南局 ◆11 発電所北局

○ 可搬型 MP

--- モニタリング車等走行ルート

○ 緊急時局

● 緊急時用大気モニタ (線量率も測定)

【測定値、測定結果の単位等について】

- $\mu\text{Sv/h}$  (マイクロシーベルト毎時) は、1時間当たりの人体に対する放射線の影響量を表す線量率の単位です。 $\text{Gy}$  (グレイ) =  $\text{Sv}$  (シーベルト) として換算しています。マイクロ ( $\mu$ ) は100万分の1を意味します。
- 測定結果の大部分は、大地に含まれる自然放射性物質からの放射線量など自然由来によるもので、地点によっても異なります。
- 雨の中にも自然放射性物質が含まれるため、雨が降ると一時的に放射線量が上昇することがあります。一方で、積雪時には、大地からの放射線が積雪により遮られるため、測定値が低下します。
- モニタリング車等の走行測定において、トンネル通過時の測定値はトンネル外と比べ高い値となります。これは、トンネル内では地面からの放射線のほかに、天井及び側面 (コンクリート等からの自然放射線) からの影響が加わるためです。
- $\text{Bq}$  (ベクレル) は、放射能を表す単位で、1  $\text{Bq}$  では1秒間に1個の原子が崩壊し、放射線を放出します。人体には天然放射性核種がわずかに含まれていますが、仮に体重が60kgとすると、その放射能は約7,000  $\text{Bq}$  になります。そのほとんどが、カリウム40と炭素14という天然放射性核種です。
- $\text{Bq/m}^3$  (ベクレル毎立方メートル) は、1立方メートル ( $1\text{m}^3$ ) (=1000リットル) の空気中に含まれる放射能を表す単位です。
- 「検出されず」とは、測定機器の検出できる最低値 ( $0.076 \text{ Bq/m}^3$ ) 以下の値であることを示します。
- 「監視強化」は、今回の再稼働にあたり、常時監視 (発電所周辺監視調査) に加えて実施するものです。